



松ヶ崎小学校 コミュニティ・ニュース

第2号

令和7年12月

発行:松ヶ崎小学校学校運営協議会
広報企画推進委員会

学校運営協議会 第2回理事会 開催



令和7年度第2回学校運営協議会理事会が、10月8日(水)に実施されました。

理事会では、学校経営方針についてお話をいただき、理事の皆様からご意見をいただいたり、お考えを聞かせていただいたりしました。



放課後まなび教室



5月から始めました「放課後まなび教室」は、月・水・金曜日の午後2時30分～午後4時30分まで実施しています。放課後の子どもたちの自主的な学びの場として運営しています。10月からは1年生も参加しています。

稲刈りと脱穀体験 ～食とわたし～



10月1日(水)に稲刈りを行いました。思い返せば、米も土もないところからのスタートでした。内心「本当に育つのだろうか」と不安もありましたが、米の調達、芽出し、土づくり、田植え、スズメ対策など、さまざまな課題を一つひとつ乗り越え、無事に稲刈りの日を迎えることができました。夏の暑さや雨風の影響もあり、すべてが予定通りとはいきませんでしたが、それもまた農業の醍醐味です。そうした困難を乗り越えて育ったお米は、きっと格別な味がすることでしょう。当日は暑さの中での作業となりましたが、子どもたちは一人ひとりが真剣な表情で取り組んでいました。初めて手にする鎌に戸惑いながらも、自分たちで育てた稲を気持ちよく刈り取っていく姿が印象的でした。刈った稲を束ねる作業は難しかったようですが、みるみるうちに上達していく様子に、子どもたちの吸収力の高さを感じました。稲刈りを終えた子どもたちからは、「楽しかった!」「早く食べたい!」という声があちこちから聞こえてきました。前向きに活動に取り組み、笑顔で終えることができた経験は、今後の学習への意欲にもつながっていくことでしょう。さらに、刈り取った稲は「あしづみ式脱穀機」をお借りして脱穀しました。松ヶ崎農業組合の岩崎さんに教えていただいた通り、子どもたちは丁寧に稲の束を脱穀機に置き、脱穀された稲の行方を目で追いながら、興味津々の様子でした。社会科の授業では、日本人が1年間に食べるお米の量は1人あたり約50キロと学習しました。今回収穫したお米は、いったいどれくらいになるのでしょうか。これから、もみすり、精米という工程を経て、私たちが普段食べている白米になります。精米されたお米と対面する日が、今からとても楽しみです。